

「福島復興への責任を果たすために」

～福島復興へ向けた取り組み～

(第11版)

2019年3月26日

東京電力ホールディングス株式会社
福島復興本社

福島復興本社代表あいさつ



福島第一原子力発電所および福島第二原子力発電所の事故により、今なお、発電所周辺地域の皆さま、福島県の皆さま、そして広く社会の皆さまに大変なご迷惑とご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

震災から8年以上が経過し、避難指示が解除された地域では帰還される方も増えてきており、さらには伝統行事等の再開や、帰還困難区域における特定復興再生拠点の環境整備の進展等、新たな動きも見られます。一方で、今もなお、多くの皆さまが避難を余儀なくされている状況が続いております。

復興が進み、ひとりでも多くの皆さまにご帰還いただけるよう私自身が福島復興本社の先頭に立ってより一層地域の皆さまに寄り添った活動を加速させてまいります。

「福島への責任を果たす」ことが我々の使命であり、原点です。このことをしっかりと胸に刻み、これからもグループ一丸となって福島復興に向けて活動を進めてまいります。

2019年3月

福島復興本社代表 **大倉 誠**

福島復興本社の組織体制

福島本部

主な業務：各所と連携した地域対応、廃炉資料館の運営、復興本社代表補佐
設置箇所：富岡町（浜通り電力所・総括箇所）等

主な業務：国、自治体と連携した復興本社の施策立案、諸計画策定、地域のみなさまからのご要望への対応策の立案
設置箇所：東京（総括箇所）、富岡町（浜通り電力所）等

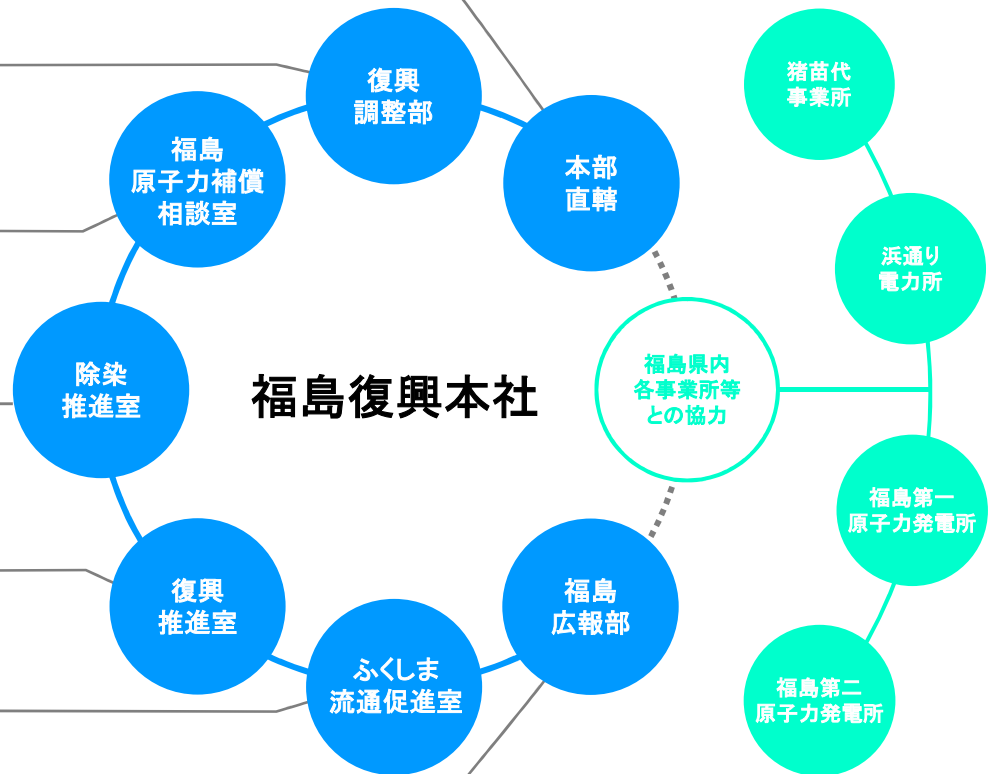
主な業務：賠償業務（円滑かつ早期の貫徹）
設置箇所：福島市（総括箇所）いわき市、郡山市、会津若松市南相馬市、東京等

主な業務：除染等推進業務（国・自治体による除染後のフォロー・中間貯蔵事業・環境回復に対する人的・技術的貢献等）
設置箇所：福島市（総括箇所）富岡町（浜通り電力所）等

主な業務：復興推進業務（帰還に向けた清掃・片付けや農業・商業再開など県内における人的貢献等）
設置箇所：福島市（総括箇所）富岡町（浜通り電力所）、楢葉町、南相馬市等

主な業務：福島県産品の販路開拓・購入促進に向けた取り組み
設置箇所：東京

主な業務：広報業務（県内の原子力・火力・水力発電所ならびに賠償・除染・復興推進の状況の広報活動等）
設置箇所：福島市（総括箇所）富岡町（浜通り電力所）



(2019年4月予定)

本資料は、第10版(2018年9月発行)に記載した内容に、その後の取り組みの追加や実績の更新等を行い、改めてとりまとめました。※各取り組みの右上に「新規」、「更新」の表示あり

(ページ)

1. 除染等推進活動

1. 除染等への対応	3
2. 中間貯蔵への対応	8
3. 廃棄物・リサイクル等への対応	10
4. 環境回復・コミュニケーションへの対応	11
5. 技術開発	18

2. 復興推進活動

1. 「避難指示解除」に向けた取り組み	19
2. 学校再開に向けた協力／放射線量測定対応	20
3. イベント対応	21
4. 見回り活動・駆けつけ活動	22
5. 営農再開等に向けた対応	23
6. 清掃・片付け	24
7. 除草作業	27
8. 荷物移動・整理	29
9. 仮設住宅の除雪	31
10. 一時帰宅対応	32
11. 介護研修会（講師派遣等）	33
12. 福島県内への派遣活動／刈払機の安全教育	34

3. 流通促進活動

1. 福島県産品販売促進活動	35
2. 福島県産品の販路拡大に向けた取り組み	36
3. 福島県産品の風評被害払拭に向けた取り組み	37
4. 「発見！ふくしま」キャンペーンの実施	38
5. ふくしま応援企業ネットワークの取り組み	39

4. 雇用創出等福島復興に資する取り組み

1. 構築した事業体制による世界最新鋭の石炭火力発電所の建設・運営	40
2. 中小経年水力発電所の設備改修	40
3. 福島県内再生可能エネルギー普及拡大への協力	41

5. 福島原子力事故の事実と廃炉事業の現状等の情報発信

1. 「東京電力廃炉資料館」	42
----------------	----

6. 原子力損害賠償

1. 迅速な原子力損害賠償に向けた組織体制／補償相談センター	43
2. 補償相談コールセンター／補償推進ユニット	44

7. 活動実績

1. 活動の実績	45
----------	----

除染等への対応（帰還に向けた施策）

<避難指示解除前の線量確認・現地調査>

- 実施日：2014年5月～2017年3月
- 実施場所：福島県 富岡町、浪江町、飯館村、川俣町(山木屋地区)
- 内容：環境省からの要請により、避難指示解除前の確実な線量低減に向けた、本格除染およびフォローアップ除染における線量確認や、除染手法等提案のための現地調査を実施
※ 帰還困難区域を除く
- 実績：延べ約30,860人



【富岡町モニタリング状況】
(除染前の現地調査状況)



【浪江町モニタリング状況】
(除染中の線量確認状況)



【飯館村モニタリング状況】
(除染前の現地調査状況)



【川俣町モニタリング状況】
(除染中の線量確認状況)

<避難指示解除前の富岡町夜の森地区桜並木の通りの現地調査>

- 実施日：2017年3月7日～3月9日
- 実施場所：福島県 富岡町
- 内容：環境省からの要請により、避難指示解除前の富岡町夜の森地区の桜並木がある通り（約300m）における線量確認等の現地調査を実施
- 実績：延べ6人



【本格除染後の線量確認状況(1)】



【本格除染後の線量確認状況(2)】

- 実施日：2015年5月～
- 実施場所：福島県 南相馬市、川内村、葛尾村、檜葉町、富岡町、浪江町、川俣町、飯館村
- 内 容：環境省からの要請により、住民の方々がご不安に思われる箇所での現地調査や
 土壌除去等を実施
 ※避難指示が解除された各地域で、同省と連携し実施中
- 実 績：延べ4,812人(2019年2月末現在)



【簡易土壌除去状況(南相馬市)】



【現地調査状況(南相馬市)】



【現地調査状況(川内村)】



【現地調査状況(富岡町)】



【現地調査状況(浪江町)】



【簡易土壌除去状況(川俣町)】



【現地調査状況(飯館村)】

1.除染等推進活動

除染等への対応（Jヴィレッジ）

- 実施日：【モニタリング】2018年1月～7月 【芝の苗植え】2018年5月16日
- 実施場所：福島県 檜葉町、広野町
- 内容：Jヴィレッジの一部再開に向けて、空間線量率と放射性物質濃度を測定したほか、「芝生広場」における芝の苗植えも実施
- 実績：【モニタリング】延べ32人
【芝の苗植え】 70人



【天然芝ピッチでの空間線量率測定状況】



【「芝生広場」の芝の苗植え】

除染等への対応（仮置場の原状回復に向けた対応）

更新

- 実施日：2017年8月～
- 実施場所：福島県 檜葉町、浪江町、飯舘村、大熊町
- 内容：環境省からの要請により、除去土壌等の搬出が完了した仮置場の原状回復に向け、仮置場跡地の空間線量率や表面汚染密度、表土中の放射性物質濃度の測定等に協力
- 実績：延べ472人（2019年2月末現在）



【空間線量率の測定状況】



【表面汚染密度の測定状況】

1.除染等推進活動

除染等への対応（学校施設等）

- 実施日：2016年10月～2017年11月
- 実施場所：福島県 川俣町、富岡町、浪江町、葛尾村、飯館村
- 内容：環境省からの要請により、2018年4月からの学校再開に向けて、校舎内・施設周辺等の空間線量率測定やプールの水質調査・分析等を実施
- 実績：延べ502人



【モニタリング状況(学校敷地)】
山木屋小中一貫校(川俣町)



【プールの水採取状況】
富岡第一中学校(富岡町)



【モニタリング状況(こども園周辺)】
浪江にじいろこども園(浪江町)



【モニタリング状況(植栽部周辺)】
葛尾小学校(葛尾村)



【モニタリング状況(学校施設内)】
飯館中学校(飯館村)

- 実施日：2016年10月24日～12月12日
- 実施場所：福島県 南相馬市 小高区
- 内容：環境省からの要請により、「福島県立小高産業技術高等学校」の2017年4月の開校に向けた、学校生活に係る箇所(学校敷地や小高駅前周辺等)のモニタリングを実施
- 実績：延べ19人



【モニタリング状況(学校敷地)】



【モニタリング状況(小高駅前周辺)】

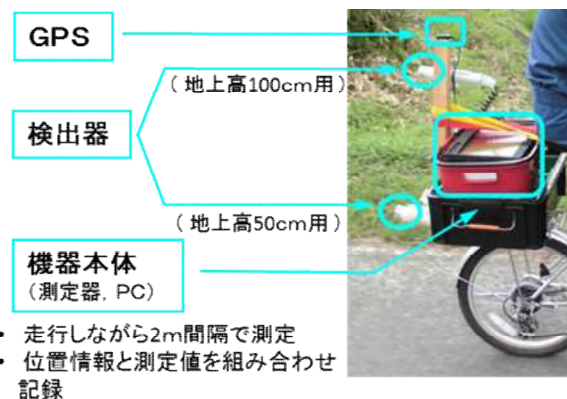
1.除染等推進活動

除染等への対応（通学路）

- 実施日：2016年4月19日～9月7日
- 実施場所：福島県 棚倉町
- 内容：棚倉町からの要請により、生徒の皆さんの安心に資するデータ取得のための自転車によるモニタリングを実施
※通学路の測定のため、約220kmを対象に地表から100cmと50cmの高さで計測
- 実績：延べ218人



【自転車モニタリング状況】



【自転車モニタリング装置の概要】

除染等への対応（工場）

- 実施日：2014年10月29日～2015年3月9日
- 実施場所：福島県 田村市（中央化学株式会社 東北工場:2015年10月27日竣工）
- 内容：田村市からの要請により、中央化学株式会社 東北工場の早期再開に向けた、モニタリングや除染作業を実施
- 実績：延べ100人



【屋内のモニタリング状況】



【屋外の側溝部 除染作業状況】

中間貯蔵への対応（輸送量拡大に向けた対応）

更新

- 実施日：2016年4月～
- 実施場所：福島県内全域
- 内容：環境省からの要請により、仮置場から中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送量拡大に向けた、技術検討・展開実態調査※および現場監督への技術支援を実施
※運搬時の遮水対策や保管容器への効率的な収納方法など
- 実績：延べ37,326人(2019年2月末現在)



【荷台遮水対策の実施状況確認】



【現場監督への技術的支援】

中間貯蔵への対応（輸送に係る講習会）

更新

- 実施日：2016年5月～
- 実施場所：福島県内
- 内容：環境省からの要請により、除去土壌等の輸送を安全かつ円滑に実施するため、仮置場の解体・輸送業務監督員等へ講習会を実施
輸送量の増大に伴い、新たに監督業務に就かれる方々に対して、試験（パイロット）輸送時の経験に基づき、仮置場から除去土壌等搬出時の確認項目や着目点等について説明
- 実績：延べ38人(2019年2月末現在)



【講習会（机上）の状況】



【講習会（仮置き場）の状況】

○環境省指示および施工計画書と対比して適切に施工されているか確認する
○詰込みの数量を確認する（日報もしくは踏き取り）



・高さ確認状況



・2個目詰込み状況

【解説】可燃物の自然減容により容量が減った保管容器を集約
【講習会資料（ポイント集）の一例】

中間貯蔵への対応（現場保管（地下保管）から除去土壌等の搬出）

更新

- 実施日：2017年12月1日～
- 実施場所：福島県 桑折町
- 内容：桑折町からの要請により、学校施設の地下に保管してある除去土壌等約1,700m³を円滑に搬出するため、技術的支援や埋め戻し前の線量確認等に協力
- 実績：延べ60人（2019年2月末現在）



【埋め戻し前の線量確認状況】



【埋め戻し前の線量確認状況】

中間貯蔵への対応（輸送実施に向けた事前調査）

- 実施日：2016年4月～2017年3月
- 実施場所：福島県内
- 内容：環境省からの要請により、2017年度における仮置場から除去土壌等を円滑に搬出するための事前調査等を実施
パイロット（試験）輸送の実績を活かした、輸送規模拡大に向けた対応
- 実績：延べ1,257人



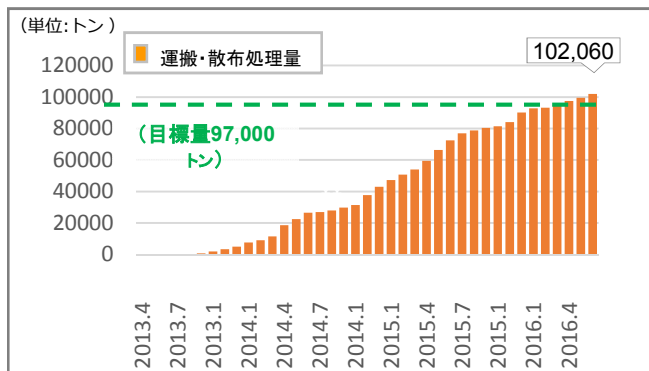
【現場調査状況（仮置場入口の寸法確認）】



【調査項目の一例】

<滞留牛ふん堆肥の流通回復>

- 実施日：2013年5月23日(初回運搬)～2016年6月末
- 内容：暫定許容値(400Bq/kg)以下の滞留堆肥の流通を促進させるため、県及び地元自治体等が、各地域の滞留堆肥供給者と受け入れ先とのマッチングの調整を行い、当社は堆肥の運搬・散布作業を手配
- 取組実績：県内17の地域協議会等と実施協定を締結し、各地域で実施
 - ・最終的な滞留解消量は、延べ約10万2千トン
 - これは約5千ヘクタール※の畑への散布に相当(東京ドーム1,091個分)
 - ※1トンの堆肥の散布面積を5アールとして算出



【滞留堆肥の解消量(累計)】



散布準備



散布

【堆肥散布の状況】

<海岸防災林の再生>

- 実施日：2016年4月15日～4月16日
- 実施場所：福島県 相馬市
- 内容：津波により被害を受けた海岸防災林の再生に向け、NPO法人日本バーク堆肥協会が主催する植栽活動に参加
相馬市磯部地区において、クロマツを植栽
- 実績：延べ15人



【クロマツの植栽】

<避難指示区域内残置自動車>

- 実施日：2013年9月～
- 実施場所：福島県 富岡町、楡葉町、浪江町、大熊町
- 内容：環境省からの要請により、公道および公共施設に残された自動車の実態調査を実施
富岡町、楡葉町、浪江町、大熊町で順次実施し、当社に賠償請求中および賠償済みの残置自動車※について、撤去・処分に関するご意向確認の案内文書を所有者さまに発送
※公道・公共施設・ご自宅等にやむを得ず残された自動車が対象
- 実績：延べ419人(2019年2月末現在)



【現地調査状況】

<イノシシ生息状況調査>

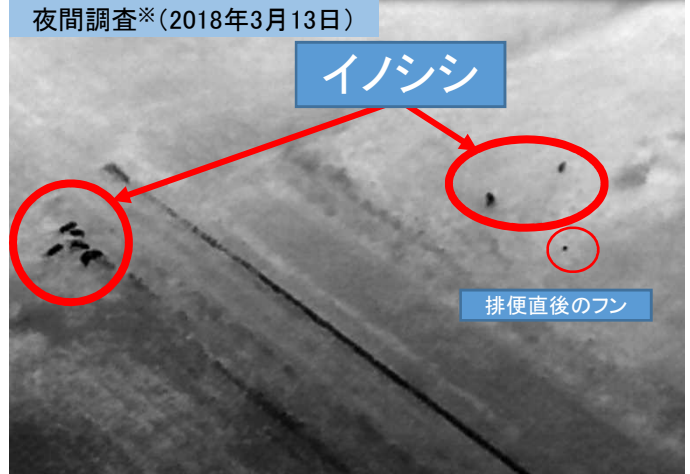
- 実施日：2018年3月6日～4月27日
- 実施場所：福島県 富岡町
- 内容：富岡町と協働で、住民の生活環境に影響を与えているイノシシの生息状況（生息域・頭数）の調査方法について実証試験を実施。調査方法は赤外線カメラを搭載したドローンにて夜間撮影を行い、イノシシの生息状況を確認。 ※調査範囲 約30ha
- 調査結果：今回の調査エリアにおいて、イノシシ約20頭の生息を確認
- 実績：延べ14人

昼間調査(2018年3月12日)



【ドローンによる事前調査状況】
(飛行ルート・安全確認等)

夜間調査※(2018年3月13日)



【ドローンにより空撮した生息状況(水田エリア)】
(赤外線カメラで撮影)

<イノシシ追い払い実証試験>

- 実施日：2018年9月20日、10月3日
- 実施場所：浪江町(両竹地区)
- 内容：超音波発信機を搭載したドローンでイノシシに接近し、超音波がイノシシを追い払う効果があるかを検証
- 試験結果：超音波を発信しているドローンの接近によりイノシシが逃げ出すなど一定の効果を確認。引き続き、超音波の効果検証とドローンによるイノシシへのアプローチ手法等、効果的な追い払い方法について検討要
- 実績：延べ8人



【実証試験状況】



【上空からイノシシに接近した状況】

<特定復興再生拠点区域におけるモニタリング等への対応>

- 実施日：2018年8月～
- 実施場所：双葉町（双葉駅）、大熊町（大野駅）、富岡町（夜ノ森駅）
- 内容：内閣府からの依頼により、特定復興再生拠点区域におけるJR常磐線3駅周辺の避難指示解除に向けて、モニタリング等を実施（JAEAと協同で対応）
 - ①歩行モニタリングによる駅周辺での空間線量率測定
 - ②走行・歩行による駅周辺での放射性物質の付着調査
 - ③公共施設での残置物の表面汚染密度測定
 - ④内部被ばく評価のための駅周辺での大気浮遊粉じん採取
- 実績：延べ237人（2019年2月末現在）



【①歩行モニタリング】



【①歩行モニタリング】



【②放射性物質の付着調査】



出典：地理院地図（電子国土Web）

調査結果については、内閣府が公表した「特定復興再生拠点区域における放射線防護対策に関する骨子案及び調査結果について」（2018年11月）を参照

調査結果URL
<https://www.nsr.go.jp/data/000254389.pdf>



【③残置物の表面汚染密度測定】



【③残置物の表面汚染密度測定】



【④大気浮遊粉じん採取】

1.除染等推進活動

環境回復・コミュニケーションへの対応（避難区域等のモニタリング）

更新

<復興拠点予定地等の詳細モニタリング>

- 実施日：2016年7月20日～10月4日
- 実施場所：福島県 双葉町、富岡町、大熊町、楡葉町、南相馬市、飯舘村、浪江町、葛尾村
- 内容：原子力規制委員会原子力規制庁からの要請により、復興拠点予定地等の自治体要望箇所についての詳細モニタリングを実施
約300km(自動車約282km、歩行約18km)に亘る区間の空間線量率の測定を実施
- 実績：延べ61人



【モニタリング打合せ状況】

<避難指示区域等主要道路の走行モニタリング>

- 実施日：2013年1月9日～
- 内容：内閣府・原子力規制委員会からの要請により、福島県内の避難指示区域等の主要道路(約1,619km)の走行モニタリングを実施
(1巡あたり5週間程度計測走行)
計測データを提出後、国から公表
2011年8月に実施した第1巡目より継続的に対応
- 実績：延べ1,526人(2019年2月末現在、第30巡目まで終了)



【車内の様子】

環境回復・コミュニケーションへの対応（JR常磐線の運転再開）

- 実施日：2017年8月23日、9月15日(10月21日運転再開)
- 実施場所：JR常磐線 富岡駅～竜田駅間 6.9km
- 内容：内閣府原子力災害対策本部からの要請により、JR常磐線(富岡駅～竜田駅間)の運転再開に向け、同区間の線路上および列車内でのモニタリングを実施
 - ・列車内の空間線量率測定結果:0.05～0.25 μ Sv/h
 - ・同区間1往復の被ばく線量:約0.032 μ Sv ※
- 実績：延べ25人

※胸部X線被ばく線量(1回あたり60 μ Sv)の約1800分の1
出典:内閣府原子力災害対策本部公表資料(2017年10月17日)



【線路上モニタリング状況】



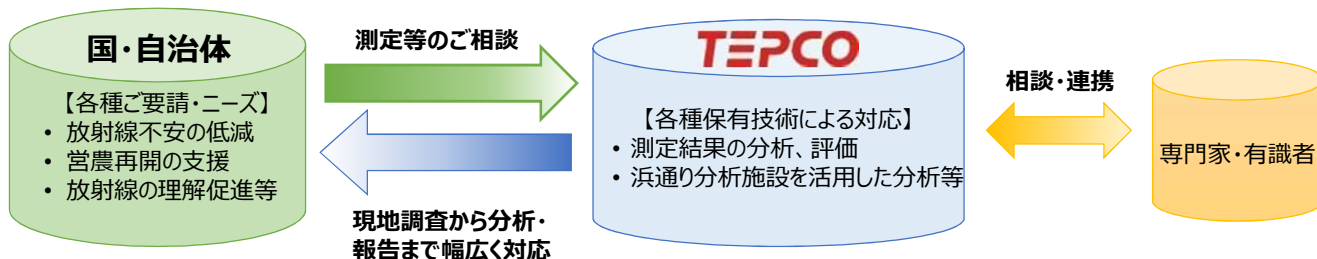
【列車内モニタリングの状況】

1. 除染等推進活動

環境回復・コミュニケーションへの対応（環境回復に向けた技術サポート）

- 概要：避難指示解除後の復興に向け、放射線や放射性物質の測定・分析技術による地域支援の強化に取り組む
 除染等推進活動で蓄積したノウハウを活かし、現場調査から分析・報告までの幅広いニーズに対応可能
 国・自治体等の帰還や営農再開などの取組みに対し、浜通り電力所内にある分析施設を拠点として、総合力で現地ニーズに丁寧にお応えしたい

1. 環境回復に向けた技術サポートの流れ



2. 各種保有技術と技術サポート事例 ～技術力を活かし、幅広いご要請・ニーズに対応～

★自社の開発技術およびノウハウを保有



1. 除染等推進活動

環境・回復コミュニケーションへの対応（檜葉町「天神原湿原」再生・保全）

- 2017年1月に檜葉町から要請をいただき、震災以降荒廃した「天神原湿原」の再生に向けて、当社が尾瀬等の自然保護活動で培った湿原の再生・保全の知見を活かし、2017年3月より、湿原の調査（植生・水位・水質）や環境整備（雑草・雑木の除去）等を実施
- 植生調査の結果、モウセンゴケやサギソウ等の希少植物50科141種（2017年10月時点）の生息を確認
- 本年2月21日、檜葉町と湿原の保全・管理・活用に関する協定を締結。当社のノウハウを活用し、天神原湿原の再生・保全活動を推進

1. これまでの再生・保全の取り組み内容



2. 生息が確認された希少植物・生息マップ

3. 協定の概要

- 檜葉町と当社は、天神原湿原の再生、保全、管理、活用に向けた相互連携の強化を目的に協定を締結
- 当社は、環境に関する専門的知見の提供や保全活動等への人的協力をを行い、天神原湿原の再生を通じて自然と共生する社会の実現を図る

4. 今後の計画

- 協定書に基づき、天神原湿原の植生調査、水位観測、再生・保全活動等を2019年度末まで実施予定

<畜産再開に向けた対応>

- 実施日：2015年10月～
- 実施場所：福島県 福島市、飯館村、楡葉町、川俣町、葛尾村、南相馬市
- 内容：各市町村、福島県農業総合センターおよび相双農林事務所からの協力依頼により、畜産再開に向けた、牛の飼育環境における牛舎等の放射線量や飼料等の放射能濃度および個人線量の測定を実施
- 実績：延べ752人(2019年2月末現在)



【飯館村(飼料のサンプル採取状況)】



【楡葉町(モニタリング状況(牛舎))】

<川俣町山木屋地区における養鶏再開に向けたモニタリング対応>

- 実施日：2017年7月～2018年3月
- 実施場所：福島県 川俣町
- 内容：福島県県北農林事務所からの要請により、川俣町山木屋地区にある3つの養鶏場において、鶏舎周辺の放射線量や井戸水の放射能濃度の測定・分析等、養鶏再開に向けたモニタリングを実施
- 実績：延べ40人



【モニタリング状況(鶏舎周辺)】

<原木しいたけ栽培再開に向けた対応>

- 実施日：2015年7月28日～2016年3月17日
- 実施場所：福島県 田村市、西郷村、中島村
- 内容：福島県からの協力依頼により、「原木しいたけ栽培再開のための確認試験」に関する汚染の外部要因(風雨、泥はね等)調査
植菌されていない原木では、泥のはねあがりなど地面からの影響を抑えることで効果があることを確認し、調査結果を県に報告
- 実績：延べ230人

模擬原木:粘着シート・不織布を巻いた塩ビ管



【泥はねの影響調査】

採取びん



【雨のサンプリング】

空気を吸引し
浮遊ダストを収集



【ダストサンプラー装置】

<「第1回 高校生が被災地で考える防災サミット in 福島」への協力>

- 実施日： 2018年12月25日～12月27日
- 実施場所： 楡葉町（Jヴィレッジ）
- 内容： NPO法人ハッピーロードネット様からの要請により、「第1回 高校生が被災地で考える防災サミット in 福島」に協力
 - ①参加された全国の原子力発電所立地道県の高校生約40名に対し、福島県産の米・野菜・果物を試料とした放射能濃度測定の体験サポートを実施
 - ②放射線の基礎知識に関するパネルを展示等
- 実績： 延べ26人



【測定準備の説明の様子】



【測定結果解説の様子】

<大阪大学「環境放射線研修」への協力>

- 実施日： 2018年9月3日
- 実施場所： 浜通り分析施設（富岡町）、廃炉国際共同研究センター[JAEA]（富岡町）、福島第一原子力発電所（大熊町・双葉町）
- 内容： 大阪大学主催「環境放射線研修(8月31日～9月5日)」の放射能濃度測定等に協力（学生等46名）
当社の分析施設を活用し、学生が自ら採取した土壌・農作物の核種分析・放射能濃度測定の支援や、遠隔操作ロボットの操作体験等
- 実績： 8人



【核種分析・放射能濃度測定支援】



【廃炉作業で使用した遠隔操作ロボットの操作体験】

1.除染等推進活動

技術開発（個人線量計およびGPSを活用した「個人線量マップ作製ソフト」の開発）

■実施日：2016年4月～6月

■概要：空間線量率ではなく、個人線量ベースのマップ作製を容易に可能※1とするソフトウェアを独自開発

※1 当ソフトのご利用には、汎用品の個人線量計※2とGPS端末が必要

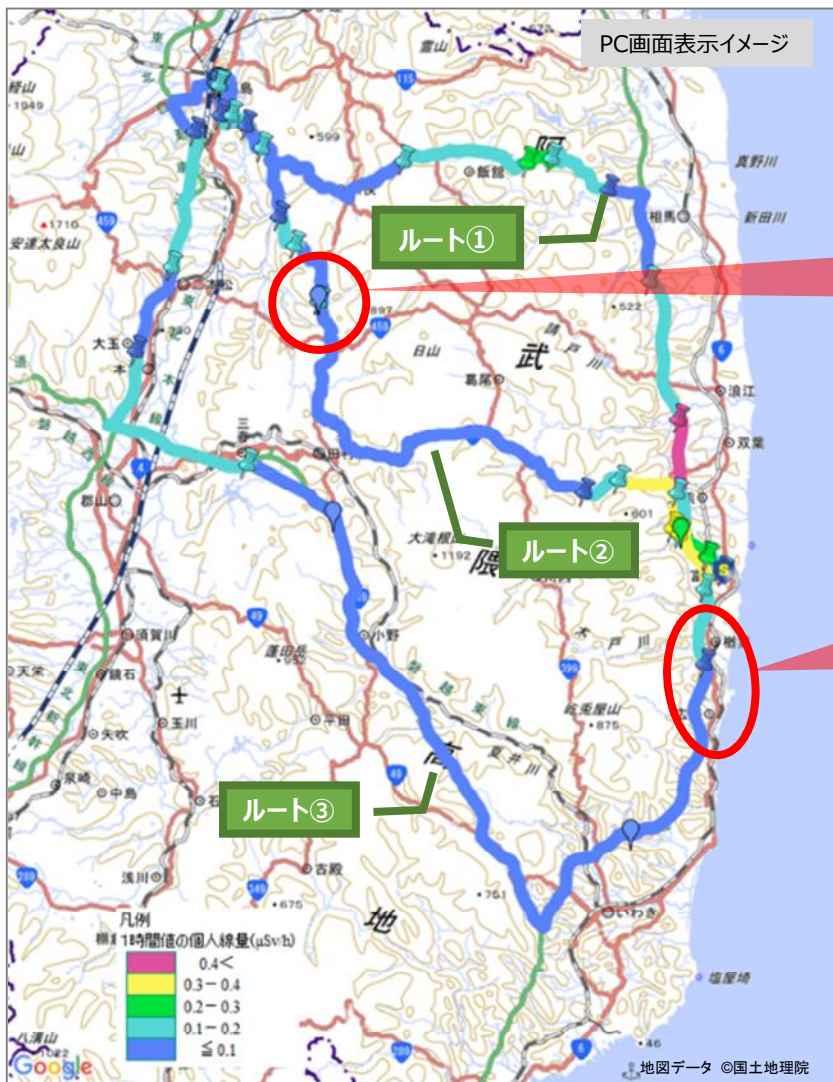
※2 高精度な線量マップ作成には、高頻度(1分単位)で計測可能な個人線量計を推奨（富士電機製 DOSEe-nano等）

- 以下機能を備えたソフトウェアの開発は国内初（当社調べ）
 - ▶個人線量を行動に沿ってマッピング（線量レベルを色で表示）
 - ▶移動時あるいは滞在箇所を自動判別し、その個人線量を地図上に表示
 - ▶Googleマップ上にも視覚的に表示可能

■活用・展開：2016年6月29日より当社ホームページにて公開中

- 広くご活用いただけるよう、国・自治体・学術機関等へのご紹介を展開中
- 当ソフトを活用した帰還・復興への取り組み等に、当社としてサポートを実施予定
- ご活用例：「ご自宅や通学路等の個人線量の把握」、「複数の移動経路ごとの個人線量の比較」など

個人線量マップ（復興本社から福島市内までの代表的な3ルート事例）



『滞在時』における個人線量の可視化



- 滞在した場所を自動判別してタグで表示
- タグの色で滞在時の個人線量(1時間値)が直感的に理解できる

『移動時』における個人線量の可視化



- 個人線量を移動経路上に色で示すことにより、移動時の個人線量(1時間値)が直感的に理解できる
- 移動開始～移動終了までの所要時間や個人線量の積算値も表示可能

「避難指示解除」に向けた取り組み

- 実施日：2017年4月(富岡町)、2017年3月(飯舘村)、2016年7月(南相馬市)
2015年8月～10月(楡葉町)
- 実施場所：福島県 富岡町、飯舘村、南相馬市(小高区)、楡葉町
- 実施内容：避難指示解除前後に各市町村で開催された式典・イベント対応
(会場設営・運営補助等)
- 実績：延べ721人(富岡町48人、飯舘村40人、南相馬市 15人(式典参列)、楡葉町 618人)



【「避難指示解除宣言」の様子(南相馬市)】(2016年7月12日)



【キャンドルナイトの様子(楡葉町)】(2015年9月4日)



【「いいてむらおかえりなさい式典」の様子(飯舘村)】
(2017年3月31日)



【「復興の集い2017」の様子(富岡町)】
(2017年4月8日)

2.復興推進活動

学校再開に向けた協力

- 実施日：2017年4月～2018年3月
- 実施場所：福島県 富岡町、浪江町、葛尾村、川俣町、飯舘村
- 実施内容：各町村内での認定こども園や小中学校の再開に向け、清掃・片付け、除草、荷物移動および関係式典における駐車場での車両誘導に協力
- 実績：延べ600人



【荷物移動の様子(葛尾村 葛尾小中学校)】(2018年3月27日)



【清掃の様子(浪江町 なみえ創成小中学校)】(2018年3月22日)

放射線量測定対応

- 実施日：2018年2月15日、22日、3月2日～4日
- 実施場所：福島県 大熊町
- 実施内容：大熊町立大野小学校での「思い出の品持ち出し」にあたり、教室等の事前放射線量測定、清掃、会場設営ならびに持ち出し品の放射線量測定を実施
- 実績：延べ17人



【事前放射線量測定の様子】(2018年2月15日)



【持ち出し品測定・引き取りの様子】(2016年3月2日)

2.復興推進活動

イベント対応（飯舘村「いいたてスポーツ公園」オープニングイベント）

- 実施日：2018年8月10日、12日
- 実施場所：福島県 飯舘村
- 実施内容：
 - ・2018年4月に再開した小中学校や認定こども園の隣接地に整備された「いいたてスポーツ公園」のオープニングイベント開催にあたり、会場設営および駐車場での車両誘導を実施
 - ・飯舘村と共同開催によるサッカーイベント（サッカー場使い初め）において、当社サッカー一部OBを中心としたチームと飯舘村有志チームとの交流試合を実施
- 実績：延べ37人（[設営・車両誘導]22人 [サッカーイベント]15人）



【会場設営の様子】(2018年8月10日)



【サッカーイベントの様子】(2018年8月12日)

イベント対応（南相馬市・浪江町「相馬野馬追」）

- 実施日：【行事】2018年7月28日、29日
【復興推進活動】2018年6月7日、7月6日、9日、10～13日、17日[除草・清掃]
2018年7月28日、29日[車両誘導・安全監視・会場設営]
- 実施場所：福島県 南相馬市・浪江町
- 実施内容：相馬野馬追の開催に向けた相馬小高神社境内の除草・清掃を実施。行事では、小高郷・標葉郷の御行列に参加。また、浪江町における式典会場の車両誘導および安全監視に協力
- 実績：延べ242人（[除草・清掃]156人 [車両誘導・安全監視・会場設営]62人 [行事]24人）



【御行列への参加の様子】(2018年7月29日)



【車両誘導の様子】(2018年7月29日)

- 実施場所：福島県 檜葉町、川俣町(山木屋地区)、葛尾村、南相馬市(小高区と原町区の一部)、富岡町、浪江町
- 実施内容：【見回り活動】
車で巡回しながらお声かけさせていただき、「重量物の移動」や「屋内のお片付け」など、ご要望を承り、帰還に向けたお手伝いを実施
- 【駆けつけ活動】
住民の皆さまよりご要請をいただき、重量物の移動や家屋清掃・除草等のうち簡易な作業について、当社社員が即時駆けつけ、お手伝いを実施 (2019年2月末現在)

活動内容	市町村	開始時期	面会軒数	お手伝い実施件数
見回り活動	檜葉町	2015年6月1日～	1,697軒	310件
	川俣町	2015年8月31日～	646軒	114件
	葛尾村	2015年8月31日～	1,181軒	118件
	南相馬市	2015年10月21日～	2,652軒	8件 ※
	富岡町	2016年9月17日～	643軒	331件
駆けつけ活動	浪江町	2016年11月22日～	259軒	247件

※2018年4月より採録



【駆けつけ車両(浪江町)】(2016年12月)



【面会の様子(川俣町)】(2015年9月)



【駆けつけ活動の様子(浪江町)】(2016年12月)



【巡回中の様子(南相馬市)】(2015年11月)

営農再開等に向けた対応（牛舎の清掃）

新規

- 実施日：2018年8月～10月
- 実施場所：福島県 葛尾村(8月3,4,16,29,30日、10月12,15日)
飯館村(9月4,5日)
- 実施内容：酪農の再開に向けた牛舎の清掃等を実施
- 実績：延べ70名



【牛舎清掃の様子】(2018年8月 葛尾村)



【牛舎清掃の様子】(2018年9月 飯館村)

営農再開等に向けた対応（侵入防止柵の設置）

更新

- 実施日：2013年8月～
- 実施場所：福島県 浪江町、葛尾村、楡葉町、広野町、川内村、南相馬市、飯館村、川俣町
- 実施内容：野生動物の田畑への侵入による被害を防止するため、田畑周囲に侵入防止柵を設置
- 実績：延べ1,718人(2019年2月末現在)



【設置作業の様子】(2018年11月 浪江町)

■実施日：

広野町	2012年3月～	南相馬市	2012年4月～	楢葉町	2012年8月～
富岡町	2013年5月～	浪江町	2013年7月～	川内村	2013年7月～
川俣町	2014年2月～	大熊町	2014年5月～	田村市	2014年5月～
双葉町	2014年8月～	葛尾村	2014年10月～		

■実施場所：福島県 広野町、南相馬市、楢葉町、富岡町、浪江町、川内村、川俣町、大熊町、田村市、双葉町、葛尾村

■実施内容：家屋内の片付け、清掃、屋外搬出

■実績：延べ129,263人(2019年2月末現在)



【片付けの様子】(2015年7月5日)



【片付け前の様子】(2015年7月5日)

【片付け後の様子】(2015年7月5日)

清掃・片付け（農林業用倉庫）

更新

- 実施日：2016年5月9日～
- 実施場所：福島県 川俣町山木屋地区
- 実施内容：農林業の再開に向けた農林業用倉庫ならびに納屋等の清掃
- 実績：延べ1,999人(2019年2月末現在)



【倉庫清掃の様子】(2016年6月8日)



【納屋清掃の様子】(2016年6月8日)

清掃・片付け（神社）

更新

- 実施日：2013年12月～
- 実施場所：福島県 相馬市、南相馬市、檜葉町、広野町
- 実施内容：各自治体並びに各神社からの要請による、神社境内の清掃(落ち葉の集積、除草等)
- 実績：延べ4,854人(2019年2月末現在)



【落ち葉清掃の様子(檜葉八幡神社・広野町)】(2016年12月22日)



【清掃の様子(相馬小高神社・南相馬市)】(2016年12月21日)

2.復興推進活動

清掃・片付け（海水浴場）

- 実施日：2016年7月5日～7月7日、2015年7月8日～7月9日、2014年7月19日
- 実施場所：福島県 いわき市 勿来海岸
- 実施内容：勿来海岸の海水浴場の海開きに向けた、砂浜（約400m）や周辺施設のごみ拾い等の清掃活動
- 実績：延べ122人（2016年度：57人、2015年度：45人、2014年度：20人）



【勿来海岸の清掃の様子】(2015年7月8日)



【勿来海岸の清掃の様子】(2014年7月19日)

清掃・片付け（市営プール）

- 実施日：2016年6月2日～6月6日（うち3日間）
- 実施場所：福島県 田村市都路町
- 実施内容：プール開きに向けた市営プールの清掃
- 実績：延べ7人



【市営古道プール清掃の様子】(2016年6月3日)
(古道小学校の児童のみなさんと協働)



【市営古道プール清掃の様子】(2016年6月6日)
(都路中学校の生徒のみなさんと協働)

除草作業（住宅等への進入路）

更新

- 実施日： 2013年9月24日～
- 実施場所： 福島県 双葉町、大熊町、楡葉町、広野町、葛尾村、川俣町、富岡町、浪江町
- 実施内容： 公道から住宅への進入路および駐車スペースで支障になっている箇所除草
- 実績： 延べ80,016人(2019年2月末現在)



【除草前の様子】(双葉町)



【除草後の様子】(双葉町)

除草作業（小学校）

- 実施日： 2015年5月19日～5月21日
- 実施場所： 福島県 楡葉町（楡葉南小学校）
- 実施内容： 楡葉町教育総務課からの要請による、楡葉南小学校の再開準備に向けた校庭の除草(手摘みで実施)
- 実績： 延べ178人



【除草前の様子】(2015年5月19日)



【除草後の様子】(2015年5月21日)

2.復興推進活動

除草作業（遊歩道）

- 実施日：2015年9月1日～9月29日（うち11日間）
- 実施場所：福島県 広野町（五社山遊歩道）
- 実施内容：広野町からの要請による、五社山遊歩道（ハイキングコース）の再開に向けた除草ならびに堆積土砂除去
- 実績：延べ139人



【除草前の様子】(2015年9月1日)



【除草後の様子】(2015年9月29日)

除草作業（果樹園）

- 実施日：2016年5月24日～5月25日
- 実施場所：福島県 会津美里町（宮里応急仮設住宅果樹園）
- 実施内容：仮設住宅の住民の方々が育成している、柿、柚子、りんご等の収穫に向けた除草（果樹園のお手入れ）
- 実績：延べ16人



【除草前の様子】(2016年5月24日)



【除草後の様子】(2016年5月25日)

除草作業（墓地）

更新

- 実施日：2013年3月2日～
- 実施場所：福島県 大熊町、葛尾村、川俣町、富岡町、浪江町、楡葉町、双葉町、広野町、田村市、南相馬市
- 実施内容：墓地の除草および清掃
- 実績：延べ27,463人（2019年2月末現在）



【除草前の様子】(2015年8月4日)



【除草後の様子】(2015年8月4日)

荷物移動・整理（図書館）

- 実施日：2015年3月4日
- 実施場所：福島県 双葉町（双葉町図書館）
- 実施内容：震災により散乱した書籍類整理および館内清掃（1階図書館、2階職員室）
- 実績：35人



【書籍類整理前の様子】(2015年3月)



【書類整理後の様子】(2015年3月)

2.復興推進活動

荷物移動・整理（役場）

- 実施日：2016年6月25日
- 実施場所：福島県 福島市(仮庁舎) → 飯舘村役場(本庁舎)
- 実施内容：福島市(仮庁舎)から飯舘村役場(本庁舎)への機能移転(荷物の搬出入)
- 実績：19人



【搬出前の様子】(2016年6月25日)



【搬出後の様子】(2016年6月25日)



【搬入前の様子】(2016年6月25日)



【搬入後の様子】(2016年6月25日)



【搬入の様子】(2016年6月25日)

荷物移動・整理（公民館）

- 実施日：2015年3月25日～3月27日
- 実施場所：福島県 檜葉町公民館、檜葉町コミュニティセンター
- 実施内容：震災後、檜葉町コミュニティセンターに仮置きしていた備品を、災害復旧工事が完了した公民館へ移動・格納(震災前の保管状態に復元)
- 実績：延べ60人



【公民館の作業前の様子】(2015年3月)



【公民館の作業後の様子】(2015年3月)

- 実施日：2012年12月10日～
- 実施場所：福島県 会津若松市、会津美里町内の大熊町・楢葉町仮設住宅
- 実施内容：仮設住宅の屋根の雪下ろしや、生活通路確保のための敷地内除雪
- 実績：延べ3,791人(2019年2月末現在)



【仮設住宅の除雪の様子】(2017年2月)



【除雪前の様子】(2017年2月)



【除雪後の様子】(2017年2月)

- 実施日：2011年5月23日～
- 実施場所：福島県 浪江町(高瀬・津島・加倉)
- 実施内容：帰還困難区域の住民の方々がマイカーまたはマイクロバスで一時帰宅される際の中継基地における受付時(防護服・線量計配布)、帰着時(線量測定)の対応
- 実績：延べ86,886人(2019年2月末現在)



【来場受付の様子】(2018年9月)



【車両の線量測定の様子】(2018年9月)



【車両の誘導の様子】(2018年9月)



【足裏の線量測定の様子】(2018年9月)

■実施日：2013年5月20日～

■実施場所：福島県内で避難されている方々がお住まいの市町村
（いわき市、郡山市、南相馬市等）

■実施内容：

○福島県をはじめ、13市町村※1を対象に、ご説明
ご提案や研修会活動を実施

○避難生活を余儀なくされている 高齢者の方
およびその介護に携わること家族を対象として、
健康の維持や介護状態の悪化防止に関する
サロンイベントや勉強会を実施。また、介護
職員の方々を対象とした介護技術研修会も
実施

→各講師はグループ会社※2の介護福祉士など

■実績：

○サロン企画・運営：63回 [参加者：839人]

○住居向け勉強会：240回 [参加者：4,436人]

○介護技術研修会：103回 [参加者：1,827人]

※1回あたりの参加者数：10～30人程度

〔合計 406回 [参加者：7,102人]
(2019年2月末現在)〕

※1 飯館村,いわき市,大熊町,葛尾村,
川内村,川俣町,田村市,富岡町,浪江町,楡葉町,
広野町,双葉町,南相馬市

※2 東電パートナーズ(株)
事業内容は介護保険事業およびこれに関する研修
事業・訪問介護・デイサービス・福祉用具のレンタル等



【サロン企画・運営(すき焼きじゃんけん)】



【介護勉強会(ベッドからの起き上がり介助)】



【介護技術研修会(接遇マナー)】



【介護技術研修会(介助実習)】

福島県内への派遣活動

- 実施日：2011年5月～
 - 実施場所：○復興推進活動のため、本社や各事業所・発電所等から、バスで福島県内へ社員を派遣
○活動前には、活動に必要な情報共有のためのガイダンスや研修を実施
 - 実績：ほぼ毎日、片道数時間かけて1台のバスに約35名の社員が乗車
(最大1日3台運行実績有り)
- 【参考】乗車時間：東京→福島 約3時間半／柏崎刈羽原子力発電所→福島約5時間
1日平均200人以上の社員が福島県内各地で復興推進活動を実施



【バスへ乗り込む社員達(東京:鍛冶橋)】(2013年11月29日)

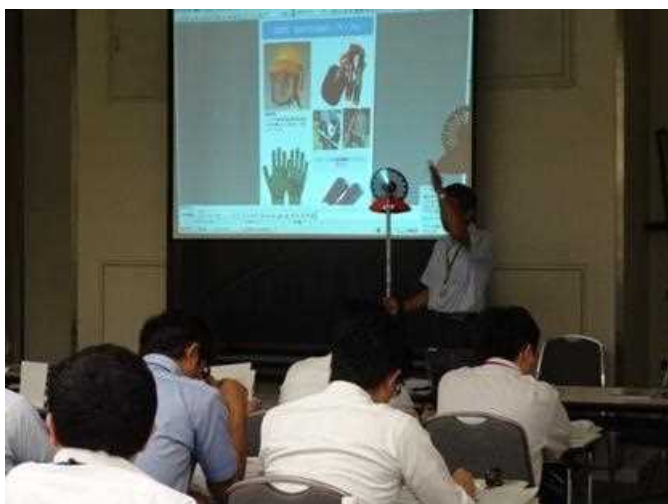


【ガイダンスの様子】(2017年8月)

刈払機の安全教育

更新

- 実施日：2013年4月～
- 実施内容：除草作業に使用する刈払機の使用にあたって、事前に安全教育(座学・実技)を実施し、福島県内の各地へ社員を派遣
- 実績：修了証発行者数は延べ約30,000人(2019年2月末現在)



【刈払機の安全教育(座学)】(2014年7月31日)



【刈払機の安全教育(実技)】(2016年2月16日)

福島県産品販売促進活動（社内）

更新

- 実施日：2011年11月～
- 実施場所：本社および各事業所
- 実施内容：社員一人ひとりが福島県産品を購入するよう、本社をはじめ各事業所で福島県産品の社内販売会等を実施
- 実績：約80事業所 延べ約800回開催（2019年2月末現在）



【支社販売会】(2018年11月8日)



【本社販売会】(2018年12月21日)

福島県産品販売促進活動（社外）

更新

- 実施日：2013年9月～
- 実施場所：各社本社ビル・工場内等
- 実施内容：企業主催の社内販売会や夏祭り・イベント等での販売サポートを実施
- 実績：36社等 延べ90日間開催（2019年2月末現在）



【社外イベント】(2019年1月12・13日)



【社外イベント】(2018年9月28・29日)

<福島県産食材の販路拡大に向けた取り組み>

- 実施日：2017年12月17日～
- 実施内容：多くの方に福島県産品のお米やお肉等の美味しさや魅力をお伝えし、福島県産品の定番化に繋げることを目的に、首都圏の小売店や飲食店と協力した販売促進イベント等を実施
福島ファンのネットワーク作りを進めるとともに、消費者の皆さまのリピート購入に繋げる活動を実施
- 実績：延べ93店舗、279日間開催



【福島県産米試食販売会の様子(クイーンズ伊勢丹様)】



【福島米試食販売会の様子(東急百貨店様)】

<ふくしまのお酒の常設販売(新規開拓)>

- 実施日：2018年4月～6月：特別試飲キャンペーン 2019年1月1日～10銘柄が常設棚で販売開始
- 実施内容：東京国際空港ターミナル株式会社様、福島県酒造協同組合の蔵元様のご協力を得て、羽田空港国際線旅客ターミナル免税店で「ふくしまのお酒」に限定した「福の酒」特別試飲キャンペーンを実施
- 実績：同キャンペーンの反響・成果を踏まえ、2019年1月より同ターミナル内の免税店で「ふくしまのお酒」10銘柄が初めて常設棚で販売開始



【試飲キャンペーンの様子】



【常設化となった店舗の様子】

<福島県産品ブランド力向上に向けた取り組み>

- 2018年5月に都内で開催されたフードサービス研究会様の例会にて、福島県産品に関する講演・試食会を開催。会員様に福島県産品への理解を深めていただくとともに、品質や美味しさを実感いただいた
- 2018年10月には、同研究会の会員である老舗・名店の飲食店様7社をお招きし、JA全農福島様のご協力のもとで、福島牛・川俣シャモの産地見学会および試食会を開催
- 現地での肥育・繁殖状況の視察や生産者様との直接対話、また福島県産品の魅力や美味しさに改めて触れていただける機会を設定。本年2月からの各店舗様における福島牛・川俣シャモの特別メニューの提供に進展
- さらに、福島県産品のブランド力を上げるため、媒体等を活用した情報発信を展開

<取り組みの流れ>

① フードサービス研究会様での講演・試食会の開催【2018年5月16日】

■ 第1部 講演の様子



■ 第2部 試食会の様子



② 福島牛・川俣シャモの産地見学会および試食会の開催【2018年10月30・31日】

■ (株)美土里耕産様(本田農場)



■ (株)川俣町農業振興公社様



■ (有)いしがみ牛様(小倉敏孝様)



■ JA東西しらかわグリーンファーム様



■ JA全農福島直売所(愛情館)様



<フードサービス研究会様の概要>

飲食サービス業会員の結束と協力により、その地位向上と相互の親睦を図り、消費者に貢献することを目的に、昭和49年3月に設立。今期で45周年を迎える老舗を含む全国の有名外食企業経営者等45名で構成される任意団体

「福島応援」の輪

【福島県産品の流通拡大に向けた取り組み】

- ・「発見！ふくしま」キャンペーンの展開
- ・ふくしま応援企業ネットワークとの連携
- ・福島県など関係者様との連携
- ・生産者様と飲食店企業様とを繋ぐ活動
- ・LINEや当社ホームページ等を活用した情報発信

③ 福島牛・川俣シャモの特別メニューの提供および情報発信【2019年2月1日～3月31日】



■ グルメ雑誌「dancyu 2月号」にて紹介

■ 試食会



<参加いただいた方からの声>

- 生産者様の人柄に触れ、福島県の豊かな自然の中で、しっかりと整えられた環境の下、元気に育つ福島牛や川俣シャモを直に見ることができて良かった
- 風評被害に負けずに頑張っている姿が印象的であり魅力を感じた
- (福島牛を試食して)脂がしつこくなくて美味しい

「発見！ふくしま」キャンペーンの実施

新規

- 実施日：2018年9月12日～2019年2月28日
- 実施内容：日常生活の中で、消費者の皆さまが福島県産品に触れて体験する機会（小売店等のイベントや多様なメディアを活用した情報発信等）を増やすことで、より多くの方にご自身でその美味しさ・魅力を「発見！」して頂き、福島ファンの輪を広げ、福島県産品を17社88店舗に定番化

【① オープニングイベント】

- 実施日：2018年9月14日～9月15日
- 実施場所：JR品川駅 中央改札内（駅構内）
- 実施内容：福島県のお米、野菜、果物、加工品、日本酒等（合計約80品目）
東西しらかわ農業協同組合様 等
- 実績：イベント期間での購入者数 約1,500人



【オープニングイベント(JR品川駅)】

【② 集中的な試食販売会の開催】

- 実施内容：福島県産米、福島牛の美味しさと魅力を実感していただく試食販売会を店舗等で開催
- 実績：述べ82店舗、219日間実施、試食された方 約2.2万人



福島県産米試食販売会の様子
(東急ストア様)



福島牛試食販売会の様子
(クイーンズ伊勢丹様)

【③ 【LINE】により福島を応援】

- 実施内容：福島県産品販売イベントや友だち登録限定のお得情報(外食店での特別割引など)を提供
- 実績：友だち登録者18万人超に拡大(2019年3月4日時点)



【④ 福島の現状や魅力を情報発信】

- 実施内容：生産者様の言葉等で福島の現状をお伝えする雑誌記事やインターネット動画を掲載
- 実績：雑誌8媒体・述べ25回、他動画4本



■ dancyu:2月号



■ JAL機内誌:SKYWARD 2月号



■ peach: はらくっち! ふくしま

ふくしま応援企業ネットワークの取り組み① (<http://fukushima-oknet.com/>)

更新

■福島県産品や観光の風評払拭に向けた活動の輪を広げ、その活動の定着を図ることを目的に
2014年11月の立ち上げ以降、会員企業も倍増し、活動を展開

設立日 2014年11月18日 設立

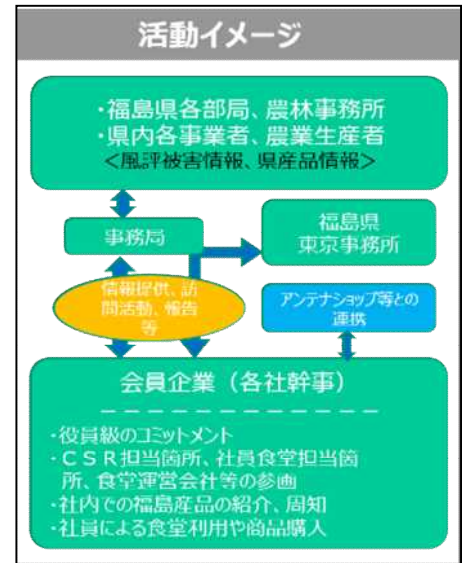
会 長 魚住 弘人 様 日立GEニュークリア・エナジー(株)取締役会長兼
(株)日立製作所原子カビジネスユニット技監

構 成 福島で廃炉作業等に携わり地域の実情を理解されている大手
企業10社と当社で発足

活 動 会員各企業がそれぞれ創意工夫をしながら福島を応援

- ・福島県産品の購入促進※
 - ・福島県内の観光や会議施設の利用促進
 - ・福島県産品の安全性について現地視察研修
 - ・各企業が実施している活動事例の紹介と共有
- ※ 社員食堂での食材利用、社内販売会(産直市)等

会員企業【128社】2019年3月1日現在



直近の実績

項目	H26年度実績	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績
■社員食堂での福島県産品の購入促進				
県産米消費量	278トン	764トン	816トン	790トン
特別メニュー提供	約13,000食	約31,000食	約43,000食	約88,000食
■企業マルシェの開催（産直市）				
開催回数	127回	306回	354回	269回
売上金額	約4,900万円	約11,500万円	約14,000万円	約14,000万円
■贈答品、記念品での福島県産品の普及拡大				
購入金額	約400万円	約900万円	約2,000万円	約860万円

ふくしま応援企業ネットワークの取り組み②

更新

【ふくしままつりinパンダ広場】

日 時：2018年11月10日,11日 10時00分～
場 所：御徒町南口駅前広場(延べ来場者数:13,719名)
内 容：福島県産品販売会(屋台・ステージ他)
・福島牛串焼、米、野菜販売、6次化商品等を販売
松坂屋上野店との連動企画(福島牛キャンペーン)

【第三回幹事連絡会】

日 時：2019年2月14日 13時00分～
場 所：いわき産業創造館セミナー室
内 容：各種情報共有
福島県：復興に向けた取り組み等
東京電力HD：発見!ふくしまキャンペーン報告他



ふくしままつり



幹事連絡会

構築した事業体制による世界最新鋭の石炭火力発電所の建設・運営

更新

- 2016年10月、三菱商事パワー(株)、三菱重工業(株)、三菱電機(株)、常磐共同火力(株)と当社の5社にて、「勿来IGCCパワー合同会社」※1と「広野IGCCパワー合同会社」※2による、発電所の建設・運営を実施する事業体制を構築
- 同事業を通じ、建設工事・資材発注および運用後の定期点検などによる産業基盤の創出の推進に貢献

※1 5社が出資(三菱商事パワー(株)、三菱重工業(株)、三菱電機(株)、東京電力ホールディングス(株)、常磐共同火力(株))
 ※2 4社が出資(三菱商事パワー(株)、三菱重工業(株)、三菱電機(株)、東京電力ホールディングス(株))

■ 勿来IGCCパワー合同会社 (Nakoso IGCC Power GK)



設立：2016年8月2日
 代表社員：三菱商事パワー(株)
 資本金：100百万円
 事業地：福島県いわき市岩間町
 設備規模：定格出力54万kW 1基
 運転開始：2020年9月(予定)



■ 広野IGCCパワー合同会社 (Hirono IGCC Power GK)



設立：2016年8月2日
 代表社員：三菱商事パワー(株)
 資本金：100百万円
 事業地：福島県双葉郡広野町
 設備規模：定格出力54万kW 1基
 運転開始：2021年9月(予定)



中小経年水力発電所の設備改修

更新

- 猪苗代水系にっばしがわ「日橋川発電所」・かながわ「金川発電所」の設備改修工事期間中の県内雇用の創出、県内事業者からの工事資機材等の調達を推進

改修工事概要

発電所の位置

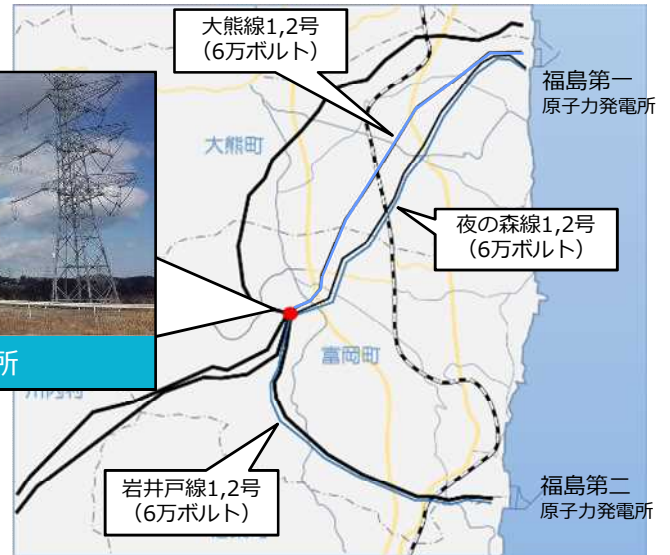
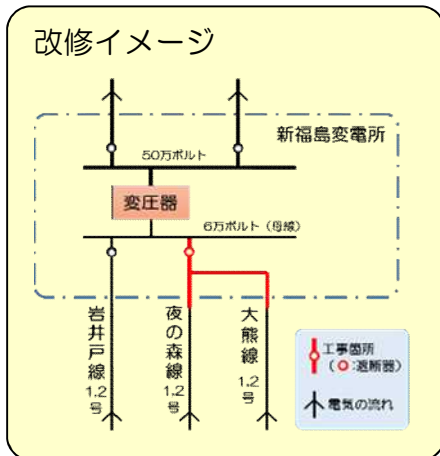
「日橋川発電所」	「金川発電所」
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 発電設備の改修 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 既設発電設備の撤去 ✓ 発電設備の新設 ◆ 発電所建屋の改修 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 既設建屋の撤去 ✓ 建屋の建設 <p>(水車発電機全3台 最大出力 10,600kW⇒11,000kW (約4%増))</p> <p>◆ 運転開始 2020年度中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 発電設備の改修 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 既設発電設備の撤去 ✓ 発電設備の新設 <p>(水車発電機全1台 最大出力 6,500kW⇒7,100kW (約9%増))</p> <p>◆ 運転開始 2019年度中</p>
(水車撤去工事)	



4.雇用創出等福島復興に資する取り組み

福島県内再生可能エネルギー普及拡大への協力①（新福島変電所の設備改修） 更新

- 2017年3月、県内再生可能エネルギーの普及に向けた、合計13万kWの再エネ接続が可能となる新福島変電所内の機器改修工事や送電線接続工事が竣工



福島県内再生可能エネルギー普及拡大への協力②（送電網建設・運営会社設立） 更新

- 2017年3月、「福島新エネ社会構想」※に基づく阿武隈山地および福島県沿岸部における再生可能エネルギーの導入拡大に向け、福島発電(株)、(株)東邦銀行と当社の3社により、送電線の建設ならびに運営を担う事業会社「福島送電合同会社」を設立
- 同事業において、送電線・変電所の設計及び建設を進め、2020年からの運用開始を目指す

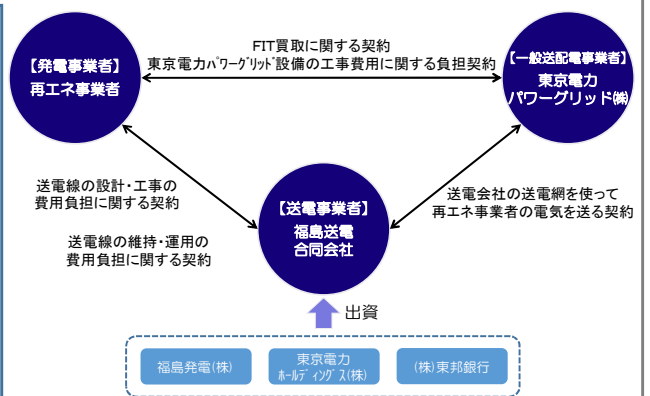
※2016年3月に「福島新エネ社会構想実現会議」が発足、同年9月に「福島新エネ社会構想」を取りまとめ

事業会社の概要

■ 福島送電合同会社

設立 : 2017年3月15日
 代表社員 : 福島発電(株)
 資本金 : 1,300万円
 事業地 : (本社) 福島県福島市中町5番21号
 出資比率 : 福島発電(株) (39.2%)
 東京電力ホールディングス(株) (37.7%)
 (株)東邦銀行 (23.1%)
 事業内容 : 阿武隈山地、福島県沿岸部における送電線・変電所の設計及び建設など

事業イメージ



「東京電力廃炉資料館」

新規

■ 設置の趣旨

発電所周辺地域をはじめとした福島県の皆さま、そして国内外の多くの皆さまが、原子力事故の事実と廃炉事業の現状等をご確認いただける場として、「東京電力廃炉資料館」を当社施設である「旧エネルギー館(福島県双葉郡富岡町)」に設置いたしました

※2019年3月25日現在の来館者数約13,000人

■ 施設の概要

- 名称：東京電力廃炉資料館
- 所在地：福島県双葉郡富岡町大字小浜字中央378番地 (旧エネルギー館)
- 開館：2018年11月30日
- 建物概要：【階層】2階建 【展示面積】約 1,900㎡
- 施設情報：【開館時間】9:30～16:30 【休館日】毎月第3日曜日・年末年始
【入館料】無料(駐車場無料)



「東京電力廃炉資料館」の外観

■ <プロローグ>

東京電力からのご挨拶文で、来館される皆さまをお迎えます



■ <記憶と記録・反省と教訓>

原子力事故を振り返り、その反省と教訓をお伝えします



■ <廃炉現場の姿>

廃炉事業の全容と最新の現場の状況をお伝えします



■ <情報スペース>

福島復興への取り組み、原子力や放射線等の情報をご覧いただけます



迅速な原子力損害賠償に向けた組織体制

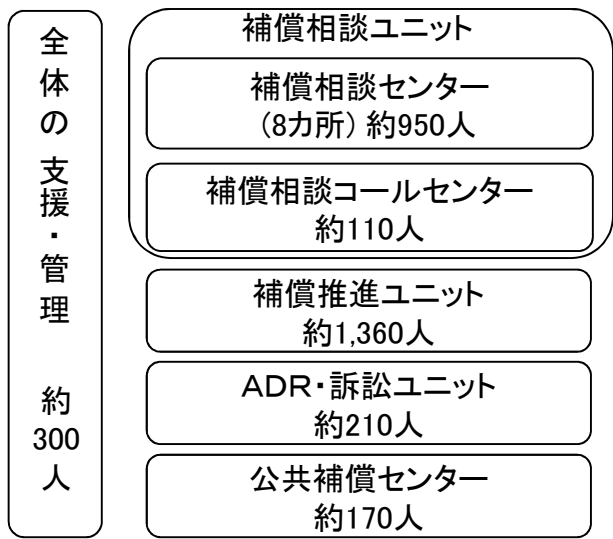
更新

- 損害賠償の迅速かつ適切な実施のための方策「3つの誓い」を踏まえ、被害を受けられた皆さまに早期に生活再建の第一歩を踏み出していただくため、必要な体制を弾力的に整備しつつ、賠償を進めております
- 今後も業務の運用改善等を図ることにより、引き続き最大限努力してまいります



【福島原子力補償相談室配属前研修の様子】

福島原子力補償相談室 約3,100人



うち福島県内は約640人 (2019年3月1日時点)

補償相談センター

更新

- 設 置 数 : 8カ所(福島県内5カ所、福島県外3カ所)
- 業 務 内 容 : ○賠償に関する説明会・相談対応、ご請求書の作成支援・受付、現地確認・説明
○主に相談窓口(福島県内に12カ所。※2019年2月末時点)やご訪問先にて業務を実施
- 実 績 : 窓口での受付対応件数 約665,000件、説明会開催件数 約1,700件、説明会へのご来場者数約36,500人、戸別訪問件数 約164,100件(復興本社設立以降～2019年2月末時点)



【相談窓口】



【個別相談ブース】(ご来場をお待ちしている様子)

補償相談コールセンター

更新

- 業務内容：○電話による賠償に関する問い合わせ、請求書の郵送手配・記入方法に関するご相談対応
○最後の一人まで適切に賠償を行うため、賠償金を未だに請求されていないご相談者さまへ電話を通じて請求のご案内
- 受付時間：9時～19時(月～金(除く休祝日))、9時～17時(土・日・休祝日)
- 実績：ご相談者さまからいただいたお電話の本数は約250万本
(コールセンター設立以降、2019年2月末までの累計)



【補償相談コールセンターの様子】

補償推進ユニット

更新

- 業務内容：○ご請求書類の発送・受領、ご請求内容の確認、賠償の考え方についてのご説明・協議、賠償金額の算定およびお支払いの手続き
○ご請求内容の確認には、「個人賠償」「法人賠償」「財物賠償」に大別し、迅速かつ公正な賠償の実施に努めております



【補償推進ユニットの様子】

活動実績（2019年2月末現在）

＜復興推進活動＞

項目	内容	対応人数実績
清掃・片付け	住宅・海水浴場・神社等の清掃・片付け	約129,300人
除草作業	学校・住宅等への進入路・墓地・遊歩道等の除草	約171,700人
荷物移動・整理	図書館・公民館等の荷物移動・整理	約1,800人
除雪作業	仮設住宅・進入路等の除雪	約4,500人
一時帰宅対応	一時帰宅対応、住民スクリーニング、測定対応等	約86,900人
営農再開等に向けた対応	除草・泥揚げ・電気柵の設置・点検、畑の復旧等	(約21,000人) * 除草・清掃・片付け 荷物移動に含まれる
その他	イベント対応、見回り活動、介護研修会 他	約71,700人
合 計		約465,900人

＜除染推進活動＞

項目	内容	対応人数実績
除染(国直轄・市町村)への対応	除染作業現場における工事管理業務等への対応、除染後のフォローアップ業務への対応等	約177,700人
廃棄物・リサイクル等への対応	滞留中の牛糞堆肥運搬・施用を促進するスキームへの対応、残置自動車 [*] 撤去・処分への対応等 ※避難指示区域内	約11,300人
中間貯蔵への対応	試験輸送への対応、中間貯蔵に係る業務の技術的支援および調査・検討等	約71,300人
環境回復・コミュニケーションへの対応	放射線不安の低減に向けたモニタリングへの対応、産業再開に向けた測定・分析支援等の技術サポート等	約9,500人
その他	技術開発関連、除染に係る検討・提案等	約37,900人
合 計		約307,700人

本写真集の一部をインターネット上に掲載するなど、他の媒体に転載することは、当社の著作権の侵害になるとともに、被写体の肖像権（人格権）の侵害となるおそれがあります。ご使用になる際は、当社へご相談下さい。